

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	論理国語	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。 (思)論理的・創造的に考える力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 (学)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに言葉を通して他者や社会に関わろうとする主体的な態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:長岡優花				
使用教科書	高等学校 標準論理国語(第一学習社)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	理解編Ⅱ クマを変えて しまう人間	6	○筆者の問題提起を捉える。具体例を整理し、要旨をまとめる。 ◆人間の行動と自然環境との関係について、筆者の主張とその根拠を捉え、論理的に考える力を身に付ける。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要ポイントを把握する。 (主) 人間と野生動物の関係のあり方について考えを深め、人間ができることについて積極的に話し合おうとしている。
	5	理解編Ⅱ コミュニケーションの文化	6	○異文化によるコミュニケーションの違いを読み取る。 ◆文化の違いとコミュニケーションの関係について理解し、筆者の主張とその根拠を読み取り、自分の考えを深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章構成や事例をもとに「コミュニケーションの文化」についての筆者の主張を把握する。 (主) 筆者の主張を検証し、そう主張する理由を粘り強く説明しようとしている。
	6	理解編Ⅱ SNSと意見の分極化	10	○具体例を整理しながら、原因と結果の関係を整理する。 ◆NSの特性によって意見が分極化する仕組みを理解し、筆者の主張とその根拠を捉えながら、情報との関わり方について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 文章の内容や解釈を評価し、自分の考えを深める。 (主) 筆者の分析を基に積極的に考えを深め、問題点を話し合おうとしている。
	7	理解編Ⅱ 新しい 博物館を	4	○筆者の主張と根拠を整理しながら、対比構造を捉える。 ◆自然の捉え方の変化について理解し、筆者の主張とその根拠を読み取りながら、人間と自然の関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 各段落の役割や関係を把握し、筆者の提案する「新しい博物館」の意義と可能性を考察する。 (主) 積極的に筆者の考えに対する意見をまとめ、文章にまとめようとしている。
二学期	9	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	6	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要ポイントを把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	10 前半	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	3	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしなが重要ポイントを把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。

期	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
一学期	10 後半	理解編Ⅱ 僕らの時代のメディア・ リテラシー	4	○筆者の主張を捉えながら、批判的に読む視点を理解する。 ◆現代のメディアの特性を理解し、情報を主体的かつ批判的に読み取る。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 内容や構成、論理の展開を的確に捉え、論点を明確にしながら要旨を把握する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	11	理解編Ⅱ 経験の教え について	7	○具体例を整理しながら、筆者のいう「経験」の意味を読み取る。 ◆経験をを通して学ぶことの意義について理解し、筆者の主張を読み取りながら自分の生き方や考え方を深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。 (主) 段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
	12	理解編Ⅱ 経験の教え について	7	○具体例を整理しながら、筆者のいう「経験」の意味を読み取る。 ◆経験をを通して学ぶことの意義について理解し、筆者の主張を読み取りながら自分の生き方や考え方を深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 論理的文章の構成の型を知り、「経験の教え」について自分に引き付けて考えを深める。 (主) 段落と段落の関係を押さえ、学習課題に従って本文の構成を捉えようとしている。
三学期	1	理解編Ⅱ 科学技術は 暴走しているのか	5	○筆者の立場を捉え、科学技術の発展と人間生活の変化を読み取る。 ◆科学技術の発展と人間との関係について、筆者の主張とその根拠を読み取り、自分の考えを深める。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 根拠や論拠を批判的に検討し、文章の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。 (主) 個別の事例と筆者の主張との関係を理解しようとしている。
	2	理解編Ⅱ 支え合うことの意味	7	○筆者の主張とその根拠を捉え、支え合いによって生まれるものを考える。 ◆人と人々が支え合うことの意味を理解し、筆者の主張を読み取りながら、よりよい人間関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。 (主) 筆者の主張を捉え、その内容について積極的に考え、学習課題に沿って説明しようとしている。
	3	理解編Ⅱ 支え合うことの意味	6	○筆者の主張とその根拠を捉え、支え合いによって生まれるものを考える。 ◆人と人々が支え合うことの意味を理解し、筆者の主張を読み取りながら、よりよい人間関係について考える。	(知) 語句の量を増やし、語彙を豊かにする。 (思) 抽象的な表現の意味を把握しながら、「支え合うことの意味」について考えを深める。 (主) 筆者の主張を捉え、その内容について積極的に考え、学習課題に沿って説明しようとしている。
その他	通年	音読 漢字の読み書き 語句の確認 読解		<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容を理解しながら、適切な速さや調子で正しく音読する。 日常生活や社会生活に必要な漢字を理解し、正しく読み書きできる。 語句の意味や使い方を理解し、語彙を豊かにする。 	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 主題を導き出すキーワードを見つける。・筆者の主張や問題提起に線を引き、分かりやすくする。 文語表現を丁寧に解説する。・他の実用的な文章も用意し、多く触れられるようにする。 難しい言葉は、辞書を引いて確認するようにする。・筆者の作品(絵)を紹介し、内容理解の助けとする。 繰り返し音読して、理解の定着を図る。・ワークシートを活用し、読解を深める 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	国語表現	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)社会に必要な国語の知識や技能を身に付け、活用することができる。 (思)言葉で的確かつ効果的に表現する能力を育成し、他者との多様な関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを深める。 (学)共感したり想像したりする力を伸ばし、自ら表現することを通して、言語文化の担い手として、社会生活の充実を図る態度を育てる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:長岡優花				
使用教科書	国語表現(大修館書店)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	伝える、伝え合う	6	○他己紹介をしよう ○マイニュース記事を書こう ◆自分の考えを的確に表現する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)同意や共感が得られるよう表現を工夫している。 (主)基礎的な対話活動に前向きに取り組もうとしている。
	5	メディアを駆使する	6	○通信文を書き分ける○手紙のいろいろ ○電話を使いこなす ○電子メール ◆コミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に活かす。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)実務的な手紙や電子メールを書いている。 (主)通信文の使い分けや、手紙の書き方に興味をもち、意欲的に学習に取り組もうとしている。
	6	自己PRと面接	10	○自分を見つめて ○効果的な自己PR ○面接 ◆自己を知ることによって様々な表現の土台を作り、進路や社会と自分の関係を考える。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討している。 (主)効果的な自己PRをすることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	7	表現を楽しむ	4	○言葉で遊ぶ ○ポスター作り ◆多種多様な言葉の世界を体験しながら、音の響きや意味の広がり豊かさを学ぶ。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)題材を決め、工夫して伝えたいことを明確にしている。 (主)言葉遊びに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。
二 学 期	9	言葉と出会う	6	○言葉と表記 ○わかりやすい文を書く ○文のつながり方 ◆基本的な表記の決まりや正しい使い方を理解する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)文末表現の統一など、表現の仕方を工夫している。 (主)文を整えて書く学習に対して積極的に取り組もうとしている。
	10 前半	小論文・レポート入門	3	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)文章の構成や展開を工夫している。 (主)小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	小論文・レポート入門	4	○小論文とは何か ○反論を想定する ◆小論文の特徴について理解し、テーマに沿って書く力を身に付ける。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)反論などを想定し文章の構成や展開を工夫している。 (主)説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	11	小論文・レポート入門	6	○文章を読み取って書く ○課題文型小論文 ◆文章の「型」を習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)反論などを想定し文章の構成や展開を工夫している。 (主)説得力を高めた小論文を書くことに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
	12	会話・議論・発表	7	○グループディスカッション ○スピーチをしよう ◆声を発する具体的な場面を想定した学習を通して、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)話し合い方について工夫したり、批評したりしている。 (主)話し合いをよりよく進めることに興味をもち、意欲的に取り組もうとしている。
二 学 期	1	表現を楽しむ	5	○書道で表現をしよう ○インタビュー ○エッセイを書こう ○演説 ◆自分の感じたことを、相手や目的に応じて表現する。 ◆言葉や表現方法の違いを理解する。	(知)各表現方法の特徴を理解し、適切に活用している。 (思)目的や相手に応じて表現を工夫し、分かりやすく伝えている。 (主)試行錯誤しながらよりよい伝え方を追求している。
	2	読書の広場	7	○ビブリオバトルをしよう ◆本の魅力を、自分の言葉で分かりやすく伝え、聞き手と共有する力を養う。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)効果的に説明し、表現の仕方を工夫している。 (主)話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。
	3	表現を楽しむ	6	○模擬裁判をしよう ◆根拠を理解しながら聞き取る。議論を通して考えを広げる。	(知)適切な表現や言葉遣いを理解する。 (思)効果的に説明し、表現の仕方を工夫している。 (主)話の構成や展開を粘り強く工夫する中で、自らの学習を調整しようとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせながら、オンライン授業や課題提出ができるように、Teamsを活用する。 論理的文章を書くための基礎・基本を学習してから実践に入る。 生徒が想定しやすいように具体的な場面を設定し、体験的に学習できるようにする。 話し合い活動を多く取り入れて、自己理解と他者理解を指導する。 生徒の様子をよく観察し、その場ですぐに褒めて、自己肯定感の向上につなげる。 	

令和 年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	政治・経済	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)自己を取り巻く社会の成り立ちを知り、環境と自己、他者との関係について真摯に考察する力を身に付ける。 (思)過去、現在、未来の自己を多角的に分析し、社会人として自立していく考え方を身に付ける。 (学)よりよい社会の実現のために、現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養い、国民主権を担う公民として、国家及び社会の形成に積極的な役割を果たそうとする自覚を深める。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:木下徹				
使用教科書	最新政治・経済(実教出版)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	・立憲主義	7	○民主政治の基本原則 ◆民主政治の基本原則を理解し、自由と権利を守る仕組みに気付くとともに、公正な社会の在り方を考える。	(知)政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解している。 (思)民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 (主)国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察したり、構想を練ったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	5	・基本的人権の保障と日本国憲法	7	○日本国憲法の基本原則 ◆日本国憲法の基本原則を理解し、個人の尊重と民主社会の在り方に気付くとともに、主権者としての自覚をもつ。	
	6	・三権分立	9	○政治機構と三権分立 ◆政治の仕組みと三権分立の意義を理解し、権力の集中を防ぐ仕組みに気付くとともに、公正な政治の在り方を考える。	
	7	・地方自治	3	○地方自治 ◆地方自治の仕組みと意義を理解し、住民の意思が反映される政治に気付くとともに、よりよい地域社会の在り方を考える。	
二学期	9	・経済活動と市場	4	○経済社会の変容 ◆経済社会の変化の様子を理解し、生活との関わりに気付くとともに、これからの経済の在り方を考える。	(知)経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさや経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解している。 (思)経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通じた経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
	10前半	・物価と景気動向	3		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	・物価と景気動向	4		(主)国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意識を強く持って、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的に考察、構想し、意欲的に取り組んだりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	11	・財政の仕組みと租税の意義	8	○財政の仕組みを知る。 ◆財政の仕組みを理解し、税金の役割と使われ方に気付くとともに、持続可能な社会の在り方を考える。	
	12	・金融の仕組みと働き	7	○金融の仕組み ◆金融の仕組みを理解し、お金の流れや役割に気付くとともに、経済の安定の在り方を考える。	
二 学 期	1	・現代社会の諸課題	5	○現代社会に関する様々な問題を知る。 ◆現代社会の様々な問題を理解し、自分との関わりに気付くとともに、よりよい社会の在り方を考える。	(知)各課題に関連する知識を整理、理解し各課題の解決に向けた考察・構想に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。 (思)社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、各課題の解決策を多面的・多角的に考察、構想し、持続可能な社会の形成に向けた自身の考えを説明、論述している。 (主)よりよい社会の実現のために、国際社会の諸課題を主体的に追究し、他者との協働もはかりながら、多面的・多角的な考察・構想を通して意欲的に課題を解決しようとしている。
	2	・国際政治の動向と課題	7	○国際政治の動向を知る。 ◆国際政治の動向を理解し、国際社会の課題に気付くとともに、平和と協力の在り方を考える。	
	3	・SDGsの実現に向けて	6	○雇用と労働をめぐる問題、地球環境問題 ◆雇用と労働、地球環境問題について理解し、社会や生活との関わりに気付くとともに、持続可能な社会の在り方を考える。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・資料集を用いて教科書の内容をわかりやすく示す。 ・主体的に考える活動を多く設定する。 		

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	生物基礎	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)生物の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。 (思)生物や生物現象を対象に、探究の過程を通じて、問題を見出すための観察、情報の収集、仮説の設定、データの分析・解釈、推論などの探究の方法を習得する。 (学)生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:熊谷賢二				
使用教科書	高校生物基礎 visual(実教出版)				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）		
					(知) 知識・技能	(思) 思考力・判断力・表現力	(主) 主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	「生物の特徴」 生物の多様性と共通性	6	<ul style="list-style-type: none"> 生物の多様性、共通性 さまざまな生物の観察 生物の多様性と進化 細胞 	(知) 生物の共通性と多様性について、すべての生物で細胞が共通の構造であることを理解している。	(思) 細胞が生物の基本構造であることを、生物学的な視点から考察することができる。	(学) 原核細胞と真核細胞について、その細胞に含まれる細胞小器官を基に、違いを理解しようとする。
	5	「生物の特徴」 生物とエネルギー	6	<ul style="list-style-type: none"> 代謝とエネルギー 酸素と代謝 酵素の働き 光合成と呼吸 	(知) 生命活動に必要なエネルギーを、呼吸や光合成から得ていることを理解している。	(思) 呼吸や光合成からエネルギーを得る方法を、関連づけて考察し、それを表現できる。	(学) 生命活動にエネルギーが必要であることを理解しようとする。
	6	「遺伝子とその働き」 遺伝情報とDNA	8	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子情報とDNA DNAの抽出 DNA分子模型の作製 DNAの複製と分配 	(知) 遺伝子、染色体、DNAの関係を理解している。	(思) 資料に基づき、DNAの構造を科学的に見出すことができる。	(学) DNAの性質や構造を、DNAの研究史とともに理解しようとする。
	7	「遺伝子とその働き」 遺伝情報とタンパク質の合成	5	<ul style="list-style-type: none"> 遺伝子とタンパク質 タンパク質の合成 ゲノムと遺伝子の発現 	(知) DNA、遺伝子、ゲノムの関係を理解している。	(思) DNAの遺伝情報に基づいてタンパク質が合成される過程を体系的に考察し、表現できる。	(学) ゲノムと遺伝子、染色体、DNAの関係について理解しようとする。
二 学 期	9	「ヒトのからだの調節」 体内環境	7	<ul style="list-style-type: none"> 体内環境と恒常性 体液とその働き 体液の調整 	(知) 体内環境が一定の範囲に保たれることとその意味を理解している。	(思) 腎臓の働きについて体系的に理解し、ろ過・再吸収のしくみを説明することができる。	(学) 外界の環境が変化しても、体内環境は一定の範囲に保たれていることを理解しようとする。
	10 前半	「ヒトのからだの調節」 体内環境の維持のしくみ	7	<ul style="list-style-type: none"> 情報の伝達 踏み台昇降運動による心拍数と呼吸の変化 自律神経系による調節 	(知) 神経やホルモンの働きにより体内環境が維持されることを理解している。	(思) 体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。	(学) 体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見出し、理解しようとする。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	「ヒトのからだの調節」 体内環境の維持のしくみ	7	・内分泌系による調節 ・自律神経系と内分泌系による調節	(知) ホルモン分泌不足による発症する疾患についての知識を得ている。 (思) 血糖濃度調節のしくみを、ホルモンと自律神経系の両方の働きから説明できる。 (学) ヒトの血糖濃度が調節されるしくみを見出し、理解しようとする。
	11	「ヒトのからだの調節」 免疫	7	・生体防御と免疫 ・自然免疫と獲得免疫 ・免疫と疾患	(知) 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解している。 (思) 資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見出して理解することができる。 (学) 病原体などの異物を認識・排除するしくみを理解しようとする。
	12	「生物の多様性と生態系」 生態系とその成り立ち	7	・生態系 ・植生とその変化 ・遷移のしくみ	(知) 植物をとり巻く環境や構成種により植生が変わっていくことを理解している。 (思) 資料に基づいて、遷移の要因を見出して理解することができる。 (学) 植生が変化する要因を見出し、その要因が植生にどのように影響するかを理解しようとする。
三 学 期	1	「生物の多様性と生態系」 植生とバイオーム	3	・世界のバイオームとその分布 ・日本のバイオーム	(知) 地球上には、気温や降水量ごとにさまざまなバイオームが成立していることを理解している。 (思) 気温や降水量によって成立するバイオームが異なることを考察し、表現できる。 (学) 地球上にはさまざまなバイオームが成立していることを理解しようとする。
	2	「生物の多様性と生態系」 生態系と生物の多様性	8	・生物の多様性 ・土壌動物の観察 ・生物同士のつながり	(知) 生態系内における種多様性、生物どうしのかかわりあいについて理解している。 (思) 生態系における生物の種多様性を見出すことができる。 (学) 生物が多様であることを、食物網や間接効果と関連付けて説明できる。
	3	「生物の多様性と生態系」 生態系のバランスと保全	6	・生態系のバランス ・人間生活による環境への影響 ・生態系の保全の重要性	(知) 生態系のバランスや、生態系の保全の重要性について理解している。 (思) 生態系の保全の重要性について、生物の多様性の視点から考察することができる。 (学) 生態系のバランスや、生態系を保全することが重要であることを理解しようとする。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活や社会との関わりが特に深い事例を取り上げ、生物と普段の生活についての関係性を理解しやすいように工夫する。 ・ICT機器を活用し、科学的な事象についてのイメージをもたせる。 ・教材や実験器具を生徒にとって扱いやすい物を準備する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	体育	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	106 単位時間
年間指導目標	(知)心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動について理解し、高度な知識や技能を深める。 (思)運動の合理的、計画的な実践を通して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育む。 (学)健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図り、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:新田真、松木克美、細貝正輝				
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	「体づくり運動」	9	○体ほぐし運動 ◆様々な運動に親しみながら、全身をバランスよく動かし、体力の向上と運動習慣の形成を図る。	(知) 身体の各部位を意識して動かすことができる。 (思)リズムやタイミングを工夫しながら身体を動かそうとしている。 (学)友達と協力しながら運動することができる。
	5	「陸上」	9	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技へ参加することができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (学)記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	6	「陸上」	11	○投てき ◆投げる動きに親しみ、適切な力加減や方向を意識して投てきする力を養う。	(知) ルールを理解して走競技や投てき競技をすることができる。 (思) 自己の課題を見つけ、解決へ向けて工夫することができる。 (学)記録の向上をめざし主体的に運動へ参加することができる。
	7	「水泳」	8	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (学)泳法を理解して泳ぐことができる。
二 学 期	9	「水泳」	8	○水中でのリラクゼーション、呼吸法、泳法の基礎 ◆水中でのリラクゼーションや呼吸法、泳法の基礎に親しみ、水に慣れながら心身の緊張を和らげ、安全に活動する力を養う。	(知) 水中で力を抜いて浮くことができる。 (思) 水中での力の抜き方や呼吸法について知ることができる。 (学)泳法を理解して泳ぐことができる。
	10 前 半	「武道」(柔道)	5	○受け身 ◆身体の使い方や姿勢に気を付けながら運動し、けがの予防につながる動きを身に付ける。	(知) 柔道の歴史や基本動作などについて知り、理解を深めることができる。 (思) 受け身の動作をすることができる。 (学)複数の受け身を身に付けようとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	「武道」(柔道)	6	○寝技 ◆寝技の基本動作に親しみ、相手との関わりの中で体の使い方を工夫し、安全に動く力を養う。	(知) 柔道の歴史や基本動作などについて知り、理解を深めることができる。 (思) 受け身の動作をすることができる。 (学) 複数の受け身を身に付けようとしている。
	11	「ダンス」	12	○リズム体操 ◆音楽に合わせて体を動かす楽しさを感じ、リズム感や表現力を養う。	(知) 身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思) リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (学) 友達と一緒にダンスを踊ることができる。
	12	「ダンス」	11	○創作ダンス ◆自分のイメージや感情を動きで表現する楽しさを味わい、創造力や表現力を養う。	(知) 身体の各部位を意識して曲げたり伸ばしたりすることができる。 (思) リズムを感じながら身体を動かすことができる。 (学) 友達と一緒にダンスを踊ることができる。
三 学 期	1	「球技」(ハンドサッカー)	6	○ドリブル、パス ◆ドリブルやパスの基本技能に親しみ、ボール操作や仲間との連携を通して、運動の楽しさを味わうとともに協力する力を養う。	(知) ルールを理解して運動することができる。 (思) ドリブルやパスの特性を理解することができる。 (学) 自己の課題を見つけて取り組むことができる。
	2	「球技」(ハンドサッカー)	12	○ミニゲーム ◆ゲームを通して、ドリブルやパスなどの技能を活用し、仲間と協力しながら状況に応じた判断や動きができる力を養う。	(知) 試合の中でドリブル、パス、シュートなどを行うことができる。 (思) 仲間や相手の動きを考えて試合を行うことができる。 (学) 仲間と協力しながら試合を行うことができる。
	3	「球技」(ハンドサッカー)	9	○シュートコンテスト ◆シュートの技能を高め、的やゴールをねらって力加減や方向を工夫しながら正確にシュートする力を養う。	(知) 課題や時間を意識してシュートすることができる。 (思) 自分に合致した課題を選択することができる。 (学) 高度な課題へ挑戦することができる。
指導の工夫 学習時の配慮事項等			<ul style="list-style-type: none"> ・ 手本を効果的に用いて、身体の動きのイメージをもちやすくする。 ・ 学習を繰り返し、見通しやイメージをもてるようにする。 ・ 学期や行事などで使用できる場所や用具を考慮する。 		

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	美術Ⅱ	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深め、意図に応じて表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表すことができるようにする。 (思)主題を生成し個性豊かに発想し構想を練ったり、自己の価値観を高めて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 (学)主体的に創造的な諸活動に取り組み、美術文化に親しむ態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:後藤理沙				
使用教科書	美術2(光村図書)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	【ガイダンス】 色の特徴を知ろう	6	○色の性質、効果、配色について知ろう ○日常生活の中にある、色の効果を知ろう ◆伝えたいイメージに合う、配色を考える。	(知)色の特徴について、理解している。 (思)色の特徴が生かされている場面に気付いたり、色の効果を考えた配色ができる。 (主)進んで色についての知識を身に付け、活用しようとしている。
	5	【絵画】 アクション・ペインティング	6	○アクション・ペインティングの作家や技法を調べよう ○テーマ、技法を決めて制作 ○鑑賞 ◆伝えたいテーマを考え、絵の具を垂らす、画面にぶつけるなどして絵を表す。	(知)アクション・ペインティングの表現について知る。 (思)意図に応じた色や表現方法を選んで表現している。 (主)アクション・ペインティングについて調べたことをまとめ、見方や感じ方を深めようとしている。
	6	【デザイン】 使う場面を考えて	14	○陶土を使った作品や技法を調べよう ○生活で使えるものを制作 ○鑑賞 ◆陶土を使った作品や技法を学び、生活で使えるものを制作する。	(知)陶土の特性や、陶土を使った作品の形や色の表現について知り、制作に生かす。 (思)使う場面に合う、形や色、模様を発想する。 (主)陶土を使った作品について調べ、自己の価値観をもって制作に生かそうとしている。
	7				
二 学 期	9	【映像メディア表現】 学校生活を表す風景を撮影する	8	○好きな学校の風景を撮影しよう ○学校の魅力を伝える動画を制作 ○鑑賞 ◆撮影の瞬間や、画面構成を意識して、学校で心に残る風景(学校の風景、授業の様子など)を撮る。	(知)デジタル機器を使った写真撮影・動画制作の方法を知り、工夫して表現する。 (思)学校生活で心に残る場面が伝わるように撮影する。 (主)学校の良さが伝わる動画になるよう、試行錯誤を重ね粘り強く制作している。
	10 前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	【映像メディア表現】 アニメーションをつくる	10	○アニメーションの技法について学ぼう ○写真や絵を用いたアニメーションを制作 ○鑑賞 ◆アニメーションデジタル機器を活用し、写真や映像を用いた作品を制作する。	(知) デジタル機器を使った表現方法を知り、表現方法を工夫する。 (思) 主題に合った構想を練り、意図に応じた表現方法を工夫する。 (主) 自己の価値観をもって作品について話し合い、作品の見方や感じ方を深めたりする。
	11				
	12	【デザイン】 問題解決のためのデザイン	13	○デザインについて知ろう ○問題解決するためのデザイン制作 ○鑑賞 ◆社会で起きているさまざまな問題に目を向け、形や色、材料を工夫して解決のためのデザインを考える。	(知) 造形的な視点について理解を深め、構成や色調の工夫ができる技能を身に付けている。 (思) 主題を生成し、自己の価値観を高めてデザインに対する見方や感じ方を深める。 (主) 既存のデザインについて調べ、よりよいデザインを考えようとする。
二 学 期	1				
	2	【絵画】 自己をあらわす	12	○自己をテーマにした美術作品を調べよう ○自分自身を作品で表す ○鑑賞 ◆さまざまな作品を鑑賞し、自分自身を工夫して表す。	(知) 自己をテーマにした美術作品について知り、自分の作品テーマに合わせて表現する。 (思) 積極的に自分自身と向き合い、テーマを決め、作品に表そうとする。制作過程に見通しをもち、適切な表現を判断して制作を進める。 (主) 自他の作品に興味をもち、自己の価値観をもって作品について話し合い、作品の見方や感じ方を深めたりする。
	3				
そ の 他	通年	美術史		・美術史について学ぶ。作品制作に関係する、作家の作品についても紹介する。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・扱いやすい材料や道具を用意する。	

令和 8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	英語コミュニケーションⅡ	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を伸ばし、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力や基礎的な英文法を習得する。 (思)世界の言葉、文化、民族を知り、全員が調和を保ち共生する方法や大切さを考える。 (学)英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 ※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:飯田拓				
使用教科書	VISTA English CommunicationⅡ (三省堂)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	Lesson5 Mont-Saint-Michel	25	○「モン・サン・ミシュルについての概要」の英語長文読解・英文法 現在完了進行形／過去完了形／過去完了進行形 ◆モン・サン・ミシュルについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 完了進行形や、既習の現在完了形を含めた完了形の使い分けについて理解している。 (思) 世界遺産を取り巻く歴史と環境について学び、その継承について考える。 (主)前後の文脈から未知語の意味を推測したり、言い換えを探したりできるようにする。
	5	Lesson6 Smart Agriculture			
	6				
	7				
二学期	9	Lesson 7 A Martial Art on Tatami	25	○「競技かるたについての概要」の英語長文読解・英文法 関係代名詞の非制限用法／関係代名詞what ◆競技かるたについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 関係代名詞の制限用法と非制限用法の違いを理解する。 (思) 競技かるたの魅力を知ることを通して、日本文化への理解を深める。
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
二 学 期	10 後 半	Lesson 8 Biologging		○「バイオロギングについての概要」の英長文読解・英文法 分詞構文／強調構文 ◆バイオロギングについての発表を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 分詞構文と強調構文を用いて、表現できる。 (思) バイオロギングの研究を通して、動物や自然環境について考える。 (主) 自発的に英語を使ってやり取りをしようとする。
	11				
	12				
三 学 期	1	Open Window The Christmas Truce	20	○リーディング教材の読解 ◆物語を読み、概要や要点を把握することができる。	(知) 単語と本文の意味を理解した後、文章全体の流れを理解する。 (思) リーディング教材の読解を通して、あらすじを把握し、文章全体の要点を捉えている。 (主) 自発的に英語を使ってやり取りをしようとする。
	2	My dream			
	3				
そ の 他	通年	外国人英語講師(ALT)との授業		<ul style="list-style-type: none"> ALTと英語でコミュニケーションしたり、英語活動を行うことで、英語のリスニング、スピーキングの技術を高める。 外国の人と触れ合うことで、文化や思考などの異文化理解を進める。 	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> 学習状況や書字状況に応じて、個別プリントなどの課題を用意する。 パソコンや、CD、DVD等の英語教材を用い、視覚的聴覚的に刺激を与えるわかりやすい授業をする。 適宜、助言を行い、間違いを恐れず、ALTと話しやすい雰囲気を作る。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	家庭総合	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	72 単位時間
年間指導目標	(知)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けるようにする。 (思)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見い出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 (学)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:上野はつえ				
使用教科書	高等学校 家庭基礎 持続可能な未来をつくる(第一学習社)				

期	月	単元(題材)名	指導時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	ガイダンス 食生活と健康	8	○家庭総合の学習内容と目的、ホームプロジェクト ○栄養素の働き、食品の安全 ◆自分の生活を見直し、改善する力を身につける ◆五大栄養素と多く含む食品を知る、食品の表示方法を知る	(知)食品の栄養的特質、調理上の性質について科学的視点から理解している。 (思)自身の食生活を分析し、現代の食生活の傾向と課題と比較して、まとめたり、発表したりすることができる。 (主)栄養素や食品の知識を生かして、自分や家族の食生活を改善しようとしている。
	5	食生活と健康 (実習含む)	8	○健康に配慮した食生活、献立作成と調理、持続可能な食生活 ◆自分や家族に必要な栄養素を知る	(知)食中毒や食物アレルギーについて理解し、健康・安全を考えた調理をすることができる。 (思)食事摂取基準や食品群別摂取量の目安を活用し、自身や家族の献立を考え、作成することができる。(主)自身や家族のほか、さまざまな年齢・ライフスタイルの人に必要な栄養素、適した献立について興味を持って調べている。
	6	食生活と健康 (実習含む)	6	献立作成と調理、持続可能な食生活 ◆自分や家族のために献立を立てる力を身につける ◆調理実習を踏まえて、自立に向けて考える	(知)資源、エネルギーに配慮した食品の購入、調理、保存ができる。 (思)自給率の低下や外食・中食への依存など現在の食をとりまく課題について深く考えている。 (主)食の安全・衛生について関心を持ち、現代の食生活における課題について目を向けている。
	7	衣生活と健康	3	○衣生活の役割、被服の機能、被服の選択、被服材料、洗濯と手入れ(洗濯、染み抜き、アイロンがけ実習含む) ◆健康や安全に配慮した衣生活を営むことができる	(知)被服の入手、洗濯、保管などの被服管理について理解し、管理できる技術を習得している。 (思)衣生活に関する学習を通して、自身の着装について考え、まとめたり、発表したりすることができる。(主)衣服の機能や安全性、環境への配慮などの知識を生かして、自分の衣生活を改善しようとしている。
二 学 期	9	ホームプロジェクト 衣服・布を用いた小物の製作	5	○ホームプロジェクト ◆自分の生活を見直し、改善する力を身につける ○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)調査・研究に必要な資料を収集・整理して具体的な計画を立てることができる。 (思)生活上の課題の解決を目指して、科学的に探求し、表現することができる。 (主)家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を見い出して改善しようとしている。
	10 前半	衣服・布を用いた小物の製作	4	○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)衣服づくりの手順を理解している。 衣服づくりに必要な用具について理解している。 (思)必要に応じた材料や手順を選ぶことができる。 (主)被服製作実習に意欲的に取り組もうとしている。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	衣服・布を用いた小物の 製作	4	○被服製作の基本、被服製作実習 ◆衣服製作の手順や道具の使い方を理解し、製作する	(知)衣服製作の基礎的な技術を身につけている。 (思)被服製作において、素材、色、縫製などを工夫することにより着心地のよい被服を作成している。 (主)被服材料に応じた被服の整理や管理について考えようとしている。
	11	共生社会と福祉	8	○共生社会、リスクに備える、社会保障制度、ノーマライゼーション、ボランティア活動 ◆人生のリスクマネジメント、ノーマライゼーションについて考える ◆自分にできるボランティア活動について考える	(知)社会保障制度や公的年金制度について理解している。 (思)共生社会の重要性を考え、その実現のための課題について具体的に考えるなど、資料を収集してまとめることができる。 (主)地域社会の一員として、個人や集団がどのようにつながり、支え合っていくか、考えようとしている。
	12	住生活と住環境	8	住まいの役割、住環境、住まいの安全 ◆住まいの役割について考える ◆地震などの災害の備えについて考える	(知)住宅の役割、住空間の計画、住環境の整備について科学的に理解している。 (思)ライフステージや動線を考えて平面図を作成し、まとめたり発表したりすることができる。 (主)将来の住まい方について考えようとしている。
三 学 期	1	住生活と住環境 持続可能なライフスタイル と環境	6	○住生活の計画、持続可能な住まい ○暮らしと環境問題、社会の取り組み、持続可能な消費 ◆未来の自分の暮らし方について多角的に考える	(知)住生活の設計に必要な情報を収集・整理し、計画をたてることができる。 (思)住居のバリアフリーやユニバーサルデザインについてまとめたり発表したりすることができる。 (主)住居の持続可能性について自分ごととして考えようとしている。
	2	持続可能なライフスタイル と環境	6	○暮らしと環境問題、社会の取り組み、持続可能な消費 ◆暮らしと環境とのかかわり、環境問題について考える	(知)環境に配慮した消費行動に必要な情報を収集・整理することができる。 (思)持続可能な社会のためにできる消費行動のあり方について、新聞、書籍、インターネット、具体例を収集し、まとめたり、発表したりできる。 (主)具体的な事例を通して、環境負荷の少ない生活について考え、自らの生活意識やライフスタイルを見直そうとしている。
	3	生涯の生活設計	6	○自分の生き方を設計しよう ◆生活設計を立てられるようになる	(知)生活に必要な金銭や生活時間などの生活資源について理解している。 (思)自身のライフスキルがどの程度高まったかを考え、まとめたり、自分らしいライフスタイルの実現を目指して、生活設計をたてたり、発表したりできる。 (主)家庭科の学習を通して得た知識・技能を活かし、生活の課題を見いだして改善しようとしている。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・シラバス、学びの地図を呈示する。 ・生徒が考えた献立や調理方法を実践するなど、実体験に基づいて気付いたり考えたりできるようにする。 ・動画などの教材を用意し、実際の場面を想像できるよう配慮する。 ・個々の生徒が使いやすい道具などを把握し、必要に応じて準備する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	数学演習	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。				
	(思)数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。				
	(学)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:城戸口直久、橋本良夫				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	数と式	35	○式の計算 ○整式とその加法・減法 ○整式の乗法 ○因数分解 ◆同類項に着目し、整式の加法・減法の計算を行い簡単にする。 ◆公式を用いて因数分解を行い、整式を簡単に表す。	(知)数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。 (思)集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。
	5				
	6				
	7	図形と計量			
二学期	9			○三角比 ○三角比 ○三角比の性質 ○三角比の拡張 ◆三角比を用いて、直角三角形の辺の長さや角の大きさを求める。 ◆三角比を活用して、身近な事象の長さや高さなどを求める。	(知)鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 (思)図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 (主)学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。
	10前半				

期	月	単元(題材)名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標(評価の観点)
二 学 期	10 後 半	数と式	35	<ul style="list-style-type: none"> ○実数 ○実数 ○根号を含む式の計算 ○一次不等式 ○不等号と不等式 ○不等式の性質 ○1次不等式 ◆実数の性質に着目し、四則計算を行う。 ◆不等式の性質を用いて一次不等式を解き、その解の範囲を表す。 	<p>(知) 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深める。不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。</p> <p>(思) 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察すること。日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。</p> <p>(主) 学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。</p>
	11				
	12				
三 学 期	1	図形と計量	35	<ul style="list-style-type: none"> ○三角比と図形の軽量 ○正弦定理 ○余弦定理 ○三角形の面積 ○空間図形の計量 ◆正弦定理、余弦定理を用いて、一般の三角形における辺と角の関係を求める。 ◆三角比を用いた面積公式を活用し、図形の計量や問題解決に用いる。 	<p>(知) 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。</p> <p>(思) 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。</p> <p>(主) 学習内容に関心をもって取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。</p>
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・負の数の計算、分数・少数の計算など、生徒の実態に応じて年度初めに基礎的な計算の復習をする。 ・単元のはじめに、ポイントを整理して、既習内容の振り返りをする。 ・生徒個々の実態を応じて、時間配分を調整する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	情報演習	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	71 単位時間
年間指導目標	(知)効果的なコミュニケーションの実現, コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得する。				
	(思)様々な事象を情報とその結び付きとして捉え, 問題解決のため情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。				
	(学)情報と情報技術を適切に活用するとともに, 情報社会に主体的に参画する態度を養う。				
	※ (知) 知識及び技能 (思) 思考力、判断力、表現力等 (学) 学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:横枕雄一郎				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
					(知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	情報社会の問題解決	17	○情報とメディア ◆情報とは何か、情報の信ぴょう性とは何かを理解し、クロスチェックの重要性を知る。問題解決のプロセスを理解するとともに、情報や情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を学ぶ。 ○情報社会における法とセキュリティ ◆情報に関する法規や制度について知り、それらの必要性について考える。個人情報保護の重要性、肖像権、プライバシー権、著作権などを正しく理解し、ユーザ認証、アクセス制御など、情報セキュリティを高める技術やその重要性について考える。 ○情報技術が社会に及ぼす影響 ◆発展する情報技術と情報技術がもたらす社会や生活の変化について知る。インターネット上のさまざまなトラブルを学び、情報技術の適切な活用について理解する。	(知)情報やメディアの特性を踏まえ、情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法を身に付ける。情報に関する法規や制度、情報セキュリティの重要性、情報社会における個人の責任及び情報モラルについて理解することができる。情報技術が人や社会に果たす役割と及ぼす影響について理解することができる。 (思)目的や状況に応じて、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考えることができる。情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任、情報モラルについて、それらの背景を科学的に捉え、考察できる。情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察できる。 (主)情報社会における問題の発見・解決に、情報と情報技術を適切かつ効果的に活用しようとしている。また、自己調整しながら、解決する過程や解決案をみずから評価し改善しようとしている。情報モラルに配慮して情報社会に主体的に参画しようとしている。
	5				
	6				
二学期	7	コミュニケーションと情報デザイン	18	○情報のデジタル表現 ◆アナログとデジタルの違い、デジタル情報の特徴やメリットを知る。ビットの概念を知り、2進法や16進法などを用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現を理解する。音、画像、動画のデジタル化の原理を理解し、デジタル情報ならではのデータ圧縮の原理と具体例について考える。 ○コミュニケーション手段の発展と特徴 ◆技術的な進歩を学び、コミュニケーション手段の発展について知る。情報発信するときのメディアの性質と特徴を理解し、目的や状況に応じて適切なメディアの選択を考える。 ○情報デザイン ◆情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解するとともに、情報を抽象化・構造化・可視化する方法や表現を工夫する技能を身に付ける。ユーザビリティやアクセシビリティ、ユニバーサルデザイン等について知る。	(知)メディアの特性とコミュニケーション手段の特徴について、その変遷も踏まえて科学的に理解することができる。情報デザインが人や社会に果たしている役割を理解する。効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法を理解し表現する技能を身に付ける。 (思)メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え、それらを目的や状況に応じて適切に選択する。コミュニケーションの目的を明確にして、適切かつ効果的な情報デザインを考える。効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し、評価し改善することができる。 (主)情報と情報技術を活用して効果的なコミュニケーションを行おうとしている。情報デザインを効果的に活用し、情報社会に主体的に参画しようとしている。
	9				
	10前半				

期	月	単元(題材)名	指導 時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点)
二 学 期	10 後 半	コンピュータとプログラミング	17	<p>○コンピュータのしくみ</p> <p>◆コンピュータの基本的なしくみとはたらき、CPU、メモリ等の基礎について理解する。コンピュータの内部における数の表現方法と計算に関する限界について知る。コンピュータで扱われる情報の特徴やコンピュータの能力との関係について考える。</p> <p>○プログラミング</p> <p>◆問題の解法をアルゴリズムを用いて表現する方法を身に付ける。プログラミングの基本的な考え方とコンピュータを活用する方法を理解する。プログラミングの技能を身に付け、プログラムを評価し改善する活動を考える。</p> <p>○モデル化とシミュレーション</p> <p>◆モデル化やシミュレーションの考え方・手順を知り、シミュレーションを通してモデルを評価し改善する方法を理解する。目的に応じたモデル化やシミュレーションを行い、その結果から問題の解決方法を考える。</p>	<p>(知) コンピュータや外部装置の仕組みや特徴、コンピュータでの情報の内部表現と計算に関する限界について理解する。アルゴリズムを表現する手段、プログラミングによってコンピュータや情報通信ネットワークを活用する方法について、技能を身に付ける。社会や自然などにおける事象をモデル化する方法と、モデルを評価し改善する方法について理解する。</p> <p>(思) コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用する。目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。</p> <p>(主) 問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとする。</p>
	11				
	12				
三 学 期	1	情報通信ネットワークとデータの活用	18	<p>○ネットワークのしくみ</p> <p>◆コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルなど、インターネットでの通信の原理について知る。パケット通信の原理とメリットについて理解する。情報通信ネットワークのしくみや情報セキュリティを確保するための方法について理解する。目的や状況に応じて、情報セキュリティを確保する方法について考える。</p> <p>○データベース</p> <p>◆データベースの概念やデータベース管理システムの機能について知る。ネットワークを介して情報システムがサービスを提供しているしくみや特徴を理解し、それらが社会生活に果たす役割と影響を理解する。情報システムが提供しているサービスを効果的に活用することについて考える。</p> <p>○データの分析</p> <p>◆データを分析する際に必要となるデータの形式、データの収集方法、データの種類について理解し、それらを扱いデータを分析する技能を身に付ける。数学的なデータ分析の基礎を理解し、表計算ソフトウェアなどを使って簡単なデータ処理や分析を行い結果の表現方法を考えさせるとともに、それらを評価し改善する活動を行う。</p>	<p>(知) 情報通信ネットワークの仕組みや構成要素、プロトコルの役割及び情報セキュリティを確保するための方法や技術について理解する。データを蓄積、管理、提供する方法、情報通信ネットワークを介して情報システムがサービスを提供する仕組みと特徴について理解する。データを表現、蓄積するための表し方と、データを収集、整理、分析する方法について理解し技能を身に付ける。</p> <p>(思) 目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考える。情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考える。データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善しようとする。</p> <p>(主) 問題の発見・解決にコンピュータを積極的に活用しようとしている。問題解決の結果を振り返り改善しようとしている。身近な問題を解決するプログラムやシミュレーションの結果をもとに、試行錯誤しながら評価し改善しようとするなどを通して、情報社会に主体的に参画しようとしている。</p>
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・個々の実態に応じて、教材等の提示位置を工夫する。 ・ICT機器を操作しやすいよう、机、書見台等を一人一人に合わせて調整する。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	産業社会と人間	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	36 単位時間
年間指導目標	(知)社会生活に必要な力についての知識や技能を身に付ける。 (思)心身ともに豊かな社会生活を送るために考えを広げることができる。 (学)自己を認識し、自ら将来の自分や社会について考える態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:清宮衛介				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点） （知）知識・技能 （思）思考力・判断力・表現力 （主）主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	オリエンテーション 自己理解 自分の将来の生き方や進路	2	○キャリアガイダンス ◆社会人としての基本的な心構えや学校生活での目標設定について理解する。 ○自分の生活を見直そう ◆自分の生活習慣や時間の使い方を振り返り、改善点を見つける。 ○ライフプラン(卒業後の自分)設計 ◆将来の生活や進路について具体的な目標を立て、計画を作成する。	(知)就業体験の目的や学習内容の理解を深め、勤労観や職業観を養う。 (思)進路実現や社会参加に向けて、キャリアプランニング能力を高めることができる。 (主)自分の課題や目標について具体的に考え、自己理解を深めようとする態度を養う。
	5	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	6	自己理解 自分の将来の生き方や進路	4		
	7	自己理解 自分の将来の生き方や進路	2		
二学期	9	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4	○就労体験ガイダンス ◆就業体験の意義と目的を理解し、準備を進める。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会生活に必要な身だしなみやマナーを身に付ける。 ○社会との関わりについて ◆地域社会や職場での人間関係の築き方を学ぶ。	(知)就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思)職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主)就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	10前半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	2		

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆社会人として求められる身だしなみや礼儀作法を実践する。 ○社会との関わりについて ◆社会参加に向けて、地域との関わり方を考える。	(知)就業体験の意義を理解し、社会生活に必要なマナーや身だしなみの知識を身に付ける。 (思)職場や地域社会での人間関係の築き方を考え、適切なコミュニケーション方法を判断できる。 (主)就業体験に向けて準備を進め、社会参加への意欲を高めようとする態度を養う。
	11	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	12	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3		
二 学 期	1	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	3	○進路講話会 ◆先輩や社会人の話を聞き、進路選択の参考にする。 ○社会でのマナー(身だしなみなど) ◆卒業後の生活を見据え、マナーを定着させる。 ○社会との関わりについて ◆社会の一員としての自覚を持ち、責任ある行動を考える。 ○1年間を振り返って ◆1年間の学習を振り返り、成長を確認し、今後の課題を明確にする。	(知)進路選択に必要な情報を収集し、卒業後の生活に必要な知識や技能を身に付ける。 (思)1年間の学習を振り返り、自己の成長と課題を分析し、今後の進路実現に向けた計画を立てることができる。 (主)社会の一員としての自覚を持ち、主体的に社会参加しようとする態度を養う。
	2	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて	4		
	3	自己理解 自分の将来の生き方や進路 社会生活への参加に向けて 次年度に向けて	2		
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをまとめたり、振り返ったりしやすいように、ワークシートを準備する。 ・自分のことを客観的に理解できるように、グループ内でも評価をし合う。 ・ロールプレイ等を行い、体験的に学習できるようにする。 ・自分の学んだことを発表する機会を設ける。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	職業実習	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)勤労の意義について理解し、職業生活に必要な能力を高める。 (思)自分の生活をデザインする力、情報や社会資源を活用する力を高め、問題解決に向けて多様な視点で考えることができる。 (学)基礎的・汎用的能力である、人間関係形成能力、自己管理能力、キャリアプランニング能力の向上を図る。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:野畑慶匡、戸澤理乃				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	営業職実習	25	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ◆宣伝営業・受注・注文集計・発注・物品輸送・納品、配達・接客・電話を使った注文、報告、連絡・顧客の状況を考慮し、ニーズに対応する実習を通して、産業現場等で行われている作業学ぶ。	(知) 営業職においての実践を行い、その場に合わせたコミュニケーションで業務を行うことができる。 (思) 必要な業務において、生徒同士で練習を行ったり、気づいたことを指摘しあったりすることができる。 (学) 自ら活動を振り返り、反省を生かして次の予定を立てることができる。
	5				
	6				
	7				
二学期	9	事務職実習	27	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ◆挨拶文や依頼文書など、基本的なビジネス文書の作成・データ入力・表計算ソフトを使った資料作成・名刺作成を通して、産業現場等で行われている作業や定型文などを使い、類似の文章を作成を学ぶ。	(知) 産業現場等で行われている作業において、分かりやすい文面をWordやエクセルを使って作成することができる。 (思) 定型文を使い、類似の文章を作成することができる。 (学) 自ら活動を振り返り、反省を生かして次の予定を立てることができる。
	10前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容 ◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半			○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ◆挨拶文や依頼文書など、基本的なビジネス文書の作成・データ入力・表計算ソフトを使った資料作成・名刺作成を通して、産業現場等で行われている作業や定型文などを使い、類似の文章を作成を学ぶ。	(知) 事務職における文章作成において、分かりやすい文面を作成することができる。 (思) 定型文などを使い、類似の文章を作成することができる。 (学) 自ら活動を振り返り、反省を生かして次の予定を立てることができる。
	11				
	12				
三 学 期	1	作業職実習	18	○産業現場等で行われている作業の学校における就労体験 ◆仕分け作業・清掃作業・作業の正確性を高める実習を通して、作業の効率を考え、円滑に進めるやり方を自ら考える。	(知) 決められた作業を円滑に進めることができる。 (思) 作業の効率を考え、手順を守って工程を見直し、実践することができる。 (学) 自ら活動を振り返り、反省を生かして次の予定を立てることができる。
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・体験的に学習することができるように、高等部の教員や経営企画室の職員と連携する。 ・生徒自身の気付きを促す言葉掛けを行う。 ・生徒の体力面や状況に応じ、適切な作業量を設定し、無理なく活動できるようにする。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	職業演習	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)実践的な体験学習を通して、働くための知識や技術の向上を図る。 (思)自分の能力や適性を的確に判断し、課題解決に活かすことができる。 (学)進路実現に向けて自ら取り組むべき課題を明らかにし、課題解決をしようとする主体的な態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:川越菜都美				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知) 知識・技能 (思) 思考力・判断力・表現力 (主) 主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	オリエンテーション 自己理解と自己受容 就労体験	7	○プレゼンテーション演習 ○表計算ソフトへのデータ入力 ○作業学習 ◆自己理解を深め、将来に向けて身に付けたい力を考える。	(知) 表計算ソフト、文書作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 自分にとって必要な力について理解を深める。 (学) 自ら課題解決に向けて考える態度を養う。
	5	勤労観・職業観の確立 就労体験	7	○プレゼンテーション演習 ○表計算ソフトへのデータ入力 ○作業学習 ◆働くことの意義や目的を理解する。	(知) 表計算ソフト、文書作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 働くことの意義や目的について考えを深める。 (学) 自ら課題解決に向けて考える態度を養う。
	6	職場での過ごし方と職業生活 就労体験	6	○プレゼンテーション演習 ○表計算ソフトの関数を使った計算 ○作業学習 ◆求人求職、障害者雇用率、基本的労働条件、社会保障制度について理解する。	(知) 表計算ソフト、文書作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 社会における制度について理解を深め、自分の生活に必要な制度を考えることができる。 (学) 自ら課題解決に向けて考える態度を養う。
	7	職場での過ごし方と職業生活 就労体験	6	○プレゼンテーション演習 ○表計算ソフトの関数を使った計算 ○作業学習 ◆求人求職、障害者雇用率、基本的労働条件、社会保障制度について理解する。	(知) 表計算ソフト、文書作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 社会における制度について理解を深め、自分の生活に必要な制度を考えることができる。 (学) 自ら課題解決に向けて考える態度を養う。
二学期	9	将来設計の立案と社会的移行の準備 就労体験	8	○自分のキャリアプランを作成する。 ○自分の進路を選ぶ。 ○表計算ソフトの関数を使った計算 ○作業学習 ◆自分の将来設計と職業について考える。	(知) 表計算ソフト、スライド作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) キャリアプランを自分なりに考えて整理することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
	10前半	将来設計の立案と社会的移行の準備 就労体験	8	○自分のキャリアプランを作成する。 ○自分の進路を選ぶ。 ○表計算ソフトの関数を使った計算 ○作業学習 ◆自分の将来設計と職業について考える。	(知) 表計算ソフト、スライド作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) キャリアプランを自分なりに考えて整理することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一学期	10 後半	将来設計の立案と社会的 移行の準備 就労体験	4	○自分のキャリアプランを作成する。 ○自分の進路を選ぶ。 ○表計算ソフトを使ったグラフの作成 ○作業学習 ◆自分の将来設計と職業について考える。	(知) 表計算ソフト、スライド作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) キャリアプランを自分なりに考えて整理することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
	11	採用選考 就労体験	8	○接客練習 ○採用面接演習 ○表計算ソフトを使ったグラフの作成 ○作業学習 ◆就職に向けた実践的な力を身に着ける。	(知) 表計算ソフト、スライド作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 場面に応じて自分の考えを適切に表現することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
	12	採用選考 就労体験	8	○接客練習 ○採用面接演習 ○表計算ソフトを使ったグラフの作成 ○作業学習 ◆就職に向けた実践的な力を身に着ける。	(知) 表計算ソフト、スライド作成ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 場面に応じて自分の考えを適切に表現することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
三学期	1	休憩時間や余暇の過ごし 方 就労体験	4	○表計算ソフトの応用 ○作業学習 ◆職場での休憩時間や休日や余暇の過ごし方について 理解する。	(知) 表計算ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 自分の生活スタイルに応じて、手段や行動を柔軟に選択することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
	2	職場におけるマナー 就労体験	6	○表計算ソフトの応用 ○作業学習 ◆職場での基本的なマナーについて理解をする。	(知) 表計算ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 職場での基本的なマナーについて理解し、実践することができる。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
	3	職業生活における健康管 理 就労体験	6	○表計算ソフトの応用 ○作業学習 ◆労働時のけがや病気から身を守る方法を知る。	(知) 表計算ソフトの操作について、知識や技術を深め、効率よく作業を行うことができる。 (思) 状況に応じて方法を自ら考え、問題解決能力を高める。 (学) 進路実現に向けて自ら考え、選択する態度を養う。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・実践形式を取り入れ、体験的に学習することができる環境を整える。 ・理解しやすい事柄を用いて、目的を明確にしなが、職業適性を考えることができるようにする。 ・自ら活動を振り返る時間を設定し、次時の活動につなげられるようにする。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	総合的な探究の時間	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	39 単位時間
年間指導目標	(知)各教科等で身に付けた知識や技能を活用したり実践したりすることができる。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝えることができる。 (学)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方について考えを深める。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:細貝正輝、上野はつえ				
使用教科書	なし				

期	月	単元(題材)名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標(評価の観点) (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	1学期オリエンテーション 話し合い活動	3	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	5	話し合い活動 校外学習事前学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画する。	
	6	話し合い活動 校外学習事後学習	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○校外学習での行程を調べ、適切に計画し、振り返りをする。	
	7	話し合い活動 1学期のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ○学部行事の企画、運営を行う。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
二学期	9	2学期オリエンテーション 話し合い活動	4	○学習及び行事予定の確認 ◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	10 前半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	話し合い活動	2	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	(知)各教科等で身に付けた知識や技能の活用を図る。 (思)集団の中で自分の役割を意識し、自分の考えや意見をまとめ、他者に的確に伝える力を高める。 (主)探究活動に主体的、協働的に取り組む態度を養い、自己の生き方を考えようとする。
	11	話し合い活動	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	12	話し合い活動 2学期のまとめ	4	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
三 学 期	1	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	2	話し合い活動	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。	
	3	話し合い活動 1年間のまとめ	3	◆自己理解・他者理解 ○様々なテーマに沿って、自分の考えを相手に伝える。 ◆目標と現在を対比し、自己の課題に気付く。	
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用しながら、学びの過程を自ら決定し、思考のスキルを身に付けられるようにする。 ・活動内容や役割分担を明確にする。 ・自分の意見や考えを整理して、集団の中で伝えられるよう、発表の機会を多く設ける。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	
教科等名	特別活動	グループ名		年間授業時数	39 単位時間
年間指導目標	(知)様々な集団行動を行う上で必要となることについて理解する。 (思)様々な場面で自分と異なる考えにある多様な他者を尊重して認め合い支え合う。 (学)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けことを生かして自己実現を図ろうとする態度を養う。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員:森本健治、松島理恵、上野はつえ、長岡優花、野畑慶匡 学校介護職員:大森美恵				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） (知)知識・技能 (思)思考力・判断力・表現力 (主)主体的に学習に取り組む態度
一学期	4	高3年のスタート	3	○3年生の集団紹介、1年間の行事紹介、係り活動決め等 ◆今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。	(知)今年度の活動や友達・教職員を知り、新たに始まる学校生活を意識する。 (思)自分のやりたい係を考えて、選ぶ。 (主)新しい教員と関わりながら係を決める。
	5	卒業制作	4	○卒業制作 ◆卒業制作のタンブラーのデザインを考える。	(知)見本を見ながら自分の好きなデザインを考える。 (思)デザインの見本の中から自分の好きな物を選ぶ。 (主)教員と相談しながら、自分からデザインを決めていく。
	6	レクリエーション活動	4	○学年のフェスティバルを行う。 ◆学年のフェスティバルに向けて友達と協力してゲーム等考える。	(知)イベントの内容について理解する。 (思)イベントで行うゲーム等を友達と協力して考える。 (主)友達同士で協力して関わりをさらに深める。
	7	レクリエーション活動	3	○学部交流会に向けて準備する。 ◆学部交流会で行うレクリエーションの準備を友達と協力して行う。	(知)行事の内容について理解する。 (思)行事で行うゲーム等を友達と協力して考える。 (主)友達同士で協力して関わりをさらに深める。
二学期	9	虹輝祭にむけて	4	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	10前半	虹輝祭にむけて	2	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。

期	月	単元（題材）名	指導 時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点）
一 学 期	10 後 半	虹輝祭にむけて	2	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	11	虹輝祭にむけて	4	○虹輝祭に向けて準備をする。 ◆虹輝祭の発表の内容について友達と協力して考え、準備する。	(知)舞台発表の内容について意識する。 (思)友達と協力して発表について考え、自分の役割を理解する。 (主)舞台練習を通じて、皆で発表を作り上げる経験を積む。
	12	学期のまとめ	4	○2学期の学習活動、また個人の成長を振り返る。 ◆虹輝祭の発表について振り返り、学期のまとめを行う。	(知)舞台発表の内容について振り返る。 (思)それぞれがんばったことを発表し、友達の考えを共有する。 (主)それぞれがんばったことを発表し、活動を振り返る。
三 学 期	1	レクリエーション活動	3	○レクリエーション活動を行う。 ◆友達と協力して活動を行う。	(知)活動の内容やチームでの役割を理解する。 (思)役割や作戦を話し合い、チームで協力する。 (主)友達と協力しながら活動する。
	2	卒業に向けて	3	○卒業式練習 ◆卒業式の練習を通して、卒業に向けて意識をもって取り組む。	(知)学校生活を振り返ることで卒業後の生活に繋げる。 (思)卒業生の言葉の内容を考え、練習する。 (主)卒業式の練習に友達と協力して取り組む。
	3	卒業に向けて	3	○卒業式練習 ◆卒業式の練習を通して、卒業に向けて意識をもって取り組む。	(知)学校生活を振り返ることで卒業後の生活に繋げる。 (思)卒業生の言葉の内容を考え、練習する。 (主)卒業式の練習に友達と協力して取り組む。
指導の工夫 学習時の配慮事項等				<ul style="list-style-type: none"> ・学年の友達との関わりを通し、豊かな人間関係を築けるような活動を設定する。 ・行事に合わせた活動を設定する。 ・活動内容を生徒が決める等、個々の自主性を引き出せるようにする。 	

令和8年度 都立鹿本学園（肢体不自由教育部門） 年間指導計画

学 部	高等部	学 年	3学年	教育課程名	準ずる教育課程
教科等名	自立活動	グループ名	C学習グループ・総合ビジネス類型	年間授業時数	70 単位時間
年間指導目標	(知)自分の身体の状態を理解し、必要な知識を身に付ける。 (思)自分に必要な手立てを相談し、考え実行することができる。 (学)自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服ができる。 ※ (知) 知識及び技能 (思)思考力、判断力、表現力等 (学)学びに向かう力、人間性等				
担当教職員	教員: 富沢聖子、上野はつえ、熊谷賢二、福永映子、藤原千嘉				
使用教科書	なし				

期	月	単元（題材）名	指導時数	○主な学習内容、◆ねらい	単元の目標（評価の観点） （知）知識・技能 （思）思考力・判断力・表現力 （主）主体的に学習に取り組む態度
一 学 期	4	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	30	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	5				
	6				
	7				
一 学 期	9	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。	
	10 前半				

期	月	単元（題材）名	指導 時数	主な学習内容	単元の目標（評価の観点）
二期	10 後半	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	13	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	(知) 自分の身体の状態に合った取り組み等を理解し、実践することができる。 (思) 自分の障害の状態における、必要な支援や配慮を理解し、発信することができる。 (主) 自らの障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服しようとしている。
	11				
	12				
三期	1	健康の保持 心理的な安定 人間関係の形成 環境の把握 身体の動き コミュニケーション	14	○身体の取り組み ストレッチ、ブリッジ、寝返り、よつばい、膝立ち、立ち直り、立ち上がり、立位、歩行 ◆誘導されたように筋緊張を緩める。 ◆誘導された感覚を感じ取りながら筋を伸ばす。 ◆誘導されたように仰向けでおしりをあげる。 ◆誘導されたように座位を行う。 ◆足底をつけて立ち上がる。 ◆片下肢へ重心を移しながら歩行を行う。 ○コミュニケーションの取り組み ◆意思伝達手段を選択し、実践する。 ◆作業学習 ◆調べ学習 ◆話し合い活動	
	2				
	3				
指導の工夫 学習時の配慮事項等				・学校医（整形外科）、外部専門家と連携を図りながら継続的に取り組めるようにする。 ・鏡を活用し、姿勢を確認できるようにする。 ・生徒の興味関心や身近な学校生活における話し合いのテーマ設定をする。	